

東京大学特任教授  
北海道大学名誉教授

やまぎし とし お  
山 岸 俊 男  
昭和23年1月21日生

(経歴)

昭和45年	3月	一橋大学社会学部卒業	
同	47年	3月	一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了
同	50年	9月	ワシントン大学社会学部教育助手
同	51年	9月	ワシントン大学社会科学計量センター助手
同	52年	9月	ワシントン大学社会科学計量センター準研究員
同	53年	6月	ワシントン大学社会学部準研究員
同	56年	4月	ワシントン大学社会学部研究員
同	56年	10月	北海道大学文学部助教授
同	56年	12月	社会学博士(ワシントン大学)
同	60年	4月	ワシントン大学社会学部助教授
同	63年	4月	北海道大学文学部助教授
平成	5年	1月	北海道大学文学部教授
同	12年	4月	北海道大学大学院文学研究科教授
同	23年	4月	北海道大学大学院文学研究科特任教授
同	23年	6月	北海道大学名誉教授
同	24年	4月	玉川大学脳科学研究所教授
同	25年	4月	東京大学特任教授(現在まで)

(受賞)

平成10年	11月	日本社会心理学会島田賞	
同	16年	11月	紫綬褒章
同	25年	9月	日本心理学会国際賞特別賞

社会心理学の分野において、様々な社会問題の根底にある「社会的ジレンマ」の研究を、個人の心理に着目する従来のミクロな研究を超えて、多人数の相互作用の結果生じるマクロな現象として扱う研究として発展させるとともに、人間関係における重要なテーマのひとつである「信頼」に関して、信頼される側からの研究と信頼する側からの研究を統合し、社会心理学のみならず、経済学、政治学、社会学、人類学などの関連分野に共通の理論的・実証的基盤を提供するなどの優れた業績を挙げ、斯学の発展に貢献した。

社会的ジレンマとは、集団の各メンバーが自分にとって利益の大きい行動を採用すると、集団全体としては利益が小さくなってしまいう状況であり、様々な社会問題の根底にある構造である。氏は社会的ジレンマ状況での人々の意思決定には「他者は集団に対して協力するだろうという期待」が大きく影響していることを明らかにしたほか、ジレンマの解決法として従来考えられていた選択的誘因(非協力者に罰を与えること)の使用には様々な問題があることを指摘した。

また、氏は経済学における「信頼に足る行動をすること」、即ち信頼される側の研究と、心理学における「相手が信頼できるかどうか分からないときに信頼すること」、即ち信頼する側の研究の二つの流れを初めて統合し、「人はなぜ他者一般を信頼するのか」という問いに対する解答を与えた。氏の提唱した「信頼の解放理論」は、社会心理学のみならず、社会学、経済学、政治学、人類学等、学問領域を超えて大きな影響を与えた。

以上のように、氏は社会心理学という分野の枠組みを超え、様々な学問領域の知見を取り入れ、またそれらの領域に向けて研究成果を発信するなど、学際的に活躍しており、その功績は誠に顕著である。